東日本大震災被災地応援部門　たより

# 轍わだち

２０２３．７．１１　NO．１５７

## ７月は「線状降水帯」の発生多発！夏休みもご注意を！

７月３日、熊本県では１日に２回も「線状降水帯」が発生。短時間での記録的大雨に襲われました。今年の７月は、急な大雨による被害が毎週ニュースになっています。熊本地震で大きな被害を受けた益城町（ましきまち）でも水害に悩まされる事態となりました。田んぼや葉たばこを育てるビニールハウスが冠水し、農業被害も多き報告されています。ANNNEWS のインタビューに対し、農家の男性は「水が全部ひいてしまわないと分からないけど、おそらくだめですね。今回はがれきができているからひどい」と語っていました。自分の命を優先して避難することが大事ですが、このような自然災害の被害については国の支援やボランティアの活躍なしでは立ち直ることが難しいでしょう。

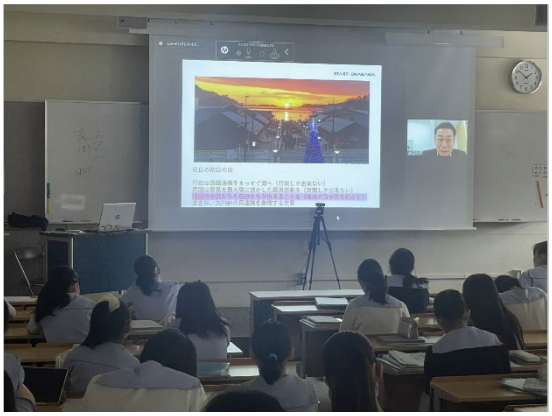
新入生（中学１年生・高校１年生）の分の防災袋とその中身がそろったので UNESCO 部の高校１年生が袋詰めをして各クラスに配りました。中身は（500ml 長期間保存水）（カロリーメイト３年保存版）（軍手）（サージカルマスク）です。本当に停電になったり帰宅困難に陥ったときは、「まさか使わないだろう」と思っていたとしても役立ちます。

皆さんも夏休み中、自宅にあるものを確認して簡易版の防災袋を作ってみてはいかがでしょう。

## ７月 29 日新大宮商店街の夏祭りに参加予定です！

長いコロナ禍によって、夏祭りへのボランティアや東日本の地産品の販売が出来ていませんでしたが、今年は４年ぶりに参加します。気仙沼で作られた「おつまみこんぶ」を 150 円で販売予定です。売上利益は被災地へのクリスマスギフトの購入にあてます。

# 探そう！生活の防災



先月 6 月 29 日(木)中学 2 年生の総合の授業にて、宮城県女川町総務課室長　青山氏から「女川町の復興まちづくりを学ぼう」というテーマの講演をお聞きしました。オンラインでの宮城県女川町と学校を結んで学習会は、今年で 2 年目です。

大災害に見舞われた経験を通し、「これからも海とともに生きることを選び」、「残った生命（いのち）をつなぐために絶望のなかでそれぞれができることから」と始められた女川町復興計画。――そこには、震災の教訓から防波堤などの防災には限界があること、だからこそ住まいは安全な高台へ、地震が起きたら高台へ逃れるなど行動指針などを盛り込んだ「減災」の理念が活かされた復興への礎がありました。SDG s 11「住み続けられるまちづくり」を学ぶなかで改めて、災害とまちづくり、都市環境の整備の大切さを学ぶ機会となりました。

(写真)町役場、住民協働してのまちづくり、また被災した当時小学生だった現在の 20 代の若い人たちの取り組みの様子など、青山さんのお話しを通じて知ることが出来ました。生徒たちは、目と耳で聞き取ったこと、感じたことを思い思いにメモをとっていました。

## 防災さんぽのススメ

月が変わり、ようやく長かった梅雨明けも今週には発表されそうです。運動不足を感じたとき、ご家族でタウンウォーク気分で、気軽にはじめてみてはいかがでしょう？

やり方は、散歩をしながら、避難場所までの道を歩いて確かめてみることです。地震の際に電柱やブロッ ク塀が倒れてくるかもしれない場所、瓦が落ちてくるかもしれない場所など、避難するときに危険かもしれない場所を観察しながら歩きます。次に大切なのは、「**夜間でも避難できるか？**」ということ。時間帯や季節によって同じルートでも状況は変わります。往復で違うルートを歩いてみるのも おすすめです。